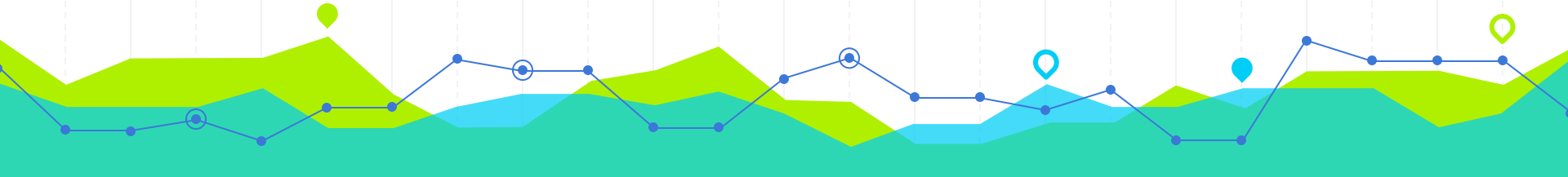


令和7年7月8日定例庁議

資料1



地域幸福度 (Well-Being)指標を 活用した政策立案研修について

Introduction - 序論 -

地域幸福度 (Well-Being) 指標

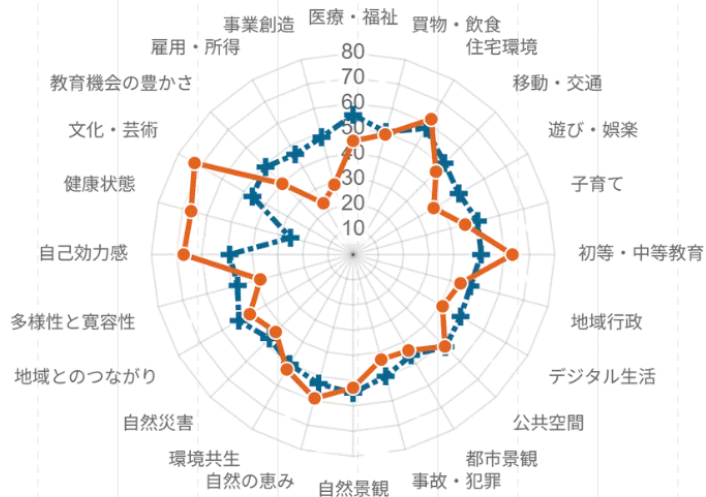
地域幸福度 (Well-Being) 指標は、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-Being)」を数値化・可視化したもので、オープンデータから都市の暮らしやすさを数値化した客観指標と市民アンケートから市民の暮らしやすさや幸福感を数値化した主観指標で構成されており、デジタル庁が活用を推奨している。

本市では、青森市スマートシティビジョンの策定プロセスにおいて同指標を活用している。



Sample - 前年度調査結果 -

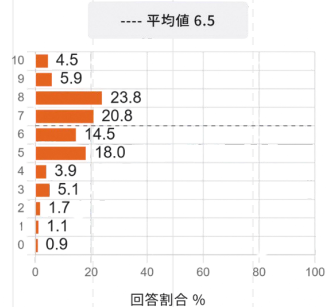
カテゴリー別



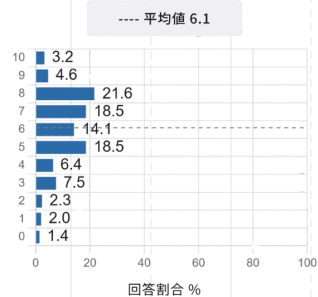
【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

— 主観データ
- - - 客観データ

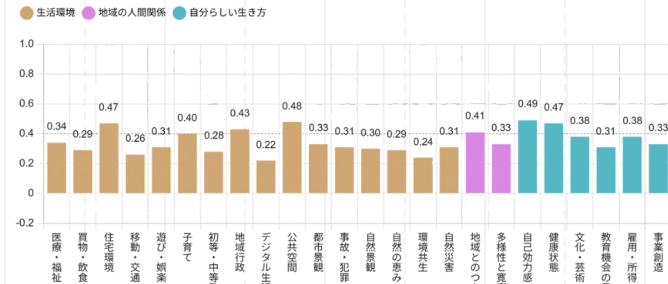
幸福度



生活満足度



幸福度と因子との相関係数



Overview - 概要 -

研修名称	地域幸福度 (Well-Being) 指標を活用した政策立案研修 ※試行実施
実施目的	スマートシティを推進し、「DX先進都市 青森市」を実現するため、市民の幸福度(ウェルビーイング)を高めるためのデータ活用や政策デザイン能力を自治体職員・関係者が身につける。
実施日時	令和7月8月20日(水) 10:00 - 16:00(講義10:00ー12:00 / ワークショップ13:00-16:00)
実施場所	AOMORI STARTUP CENTER
講 師	土屋 俊博 様(デジタル庁 Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業による)
参 加 者	青森市スマートシティビジョンの重点分野等の関係課長、青森商工会議所職員 ※政策提言を踏まえて青森商工会議所職員を追加 ※重点分野等に関連しない市長部局については筆頭課長を追加
定 員	25名程度(5人×5グループ)



Facilitator - 講師 -

土屋 俊博 様

電機メーカーに入社、新規事業部門で消費者向け新事業検討や経営企画部門でコーポレート機能変革・グローバルのSI・ソフトウェアリソース戦略・グループ経営・カルチャー変革・共創活動に従事。

2018年よりスマートシティ関連事業の企画部門に所属。

2019年から内閣府科学技術・イノベーション推進事務局でスマートシティ関連政策を担当。

2022年5月に一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアムの設立に携わる。

神戸市スマートシティアドバイザー / 草津市スマートシティ社会実装アドバイザー / Code for Nagareyama / Civic Tech Zen Chiba / 組織内中小企業診断士協会 理事長 / 非営利活動法人中小企業・地域創生ネットワーク理事

※福井県大野市でワークショップ実施実績あり

Target Participants - 参加対象者 -

地域交通	・都市整備部 都市政策課長 ・交通部 管理課長 ・浪岡事務所 総務課長	雪対策	・都市整備部 道路維持課長 ・総務部 危機管理課長 ・福祉部 福祉政策課長
中心市街地	・経済部 経済政策課長	実行性	・総務部 人事課長 ・企画部 DX推進課長 ・企画部 財政課長
観光	・経済部 観光課長 ・経済部 交流推進課長		
ヘルスケア	・保健部 健康づくり推進課長	その他	・企画部 企画調整課長 ・企画部 広報広聴課長 ・税務部 納税支援課長 ・環境部 環境政策課長
子育て・教育	・こども未来部 こども・若者政策課長 ・教育委員会 総務課長		
自治体DX	・総務部 情報管理課長 ・市民部 市民課長	関係者	・青森商工会議所職員(2名)
産業DX	・経済部 創業・人づくり推進課長 ・農林水産部 農業政策課長		

※スケジュールに都合がつかない場合は所属内で代理参加とする

Image - 研修イメージ -

Well-Being 指標活用 ファシリテーター紹介・派遣事業

別添 3

地域のWell-Being向上に向けた取り組みを
プロのファシリテーターがサポートします！

人々の『心ゆたかな暮らし』へ。

こんな課題をお持ちの自治体の皆さまへ

- Well-beingや地域幸福度（Well-Being）指標についてもっと深く知りたい
- 指標に基づく政策デザインのワークショップを職員研修に取り入れたい
- 指標を使って住民や地域の関係者との効果的な対話の場を作りたい

実績ある手法

100自治体以上の実績あるプログラムで、地域幸福度指標に基づく政策デザイン手法を効率よく学べます。

充実のサポート

ワークショップ資料は都度カスタマイズ。当日の運営など主催者向けの実施サポートも充実しています。

柔軟な実施形態

最大30名まで参加可能なグループワーク。職員向け、地域の事業者・住民向けのどちらにも対応しています。

Well-Being指標・ファシリテーターとは？

地域幸福度（Well-Being）指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化する指標です。



ワークショップの流れ

- ① 地域幸福度指標ダッシュボードを活用してまちの特徴を俯瞰する
- ② 主観 x 客観分析を通じて市民のWell-Beingにとって重要な因子を見つける
- ③ 市民の幸福度・生活満足度と相関性の高い因子を特定する
- ④ 市民のウェルビーイングを高めるための重点領域を決める
- ⑤ 将来のウェルビーイングが向上した都市像を言語化する
- ⑥ チーム発表と講評

A市の実施事例

地域課題

地域幸福度指標について理解を深めたい

参加者

各局の部長・課長級20名

次のステップ

個別調査（独自アンケート調査）の実施



B県の実施事例

地域課題

実施済の個別調査をもとに議論を深めたい

参加者

県並びに傘下の基礎自治体の担当者23名

次のステップ

市民・事業者向けのワークショップ開催



Survey - アンケート -

調査目的	青森市スマートシティビジョンの策定において活用した同指標を毎年計測することで、市民の幸福度や生活満足度をデータで可視化し、スマートシティ推進に役立てる。
質問項目	基本情報:3問、標準設問:51問(SCI-Jによる既定設問)、独自設問:6問 計60問 ※全設問で60問になるように調整・詳細は別添設問表のとおり
回答期間	令和7年7月14日から8月7日まで(4週間程度)
回答方法	WEBフォーム(青森市電子申請システムによる)
周知方法	LINE(約9,200人)、Facebook(約4,800人)、X(約15,000人)、広報あおもり8月号、市公式HP ※職員向けにはポータルで定期的に周知
回収目標	400(統計上の誤差範囲±5%)~1,100(同±3%)
結果公表	デジタル庁のダッシュボード及び市公式HPにおいて公表